

カスタムワールド実験室

世の中に星の数ほどあるカスタムパーツ。その中には使い方や効果がよくわからないものもある。そこで、厳選されたアイテムを編集部員自らが使い、ときには自分のバイクに装着してその効果をレポートするという、カラダをはった企画である。もちろん原理や取り付け方が難しいものはちゃんとプロに話を聞いてきますよ～!

関野 温: 写真 photo by Atsushi Sekino
横田和彦: 写真・文 photo & text by Kazuhiko Yokota

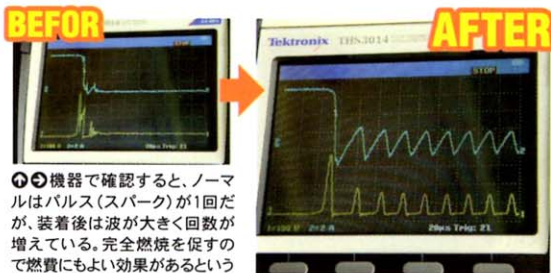
プラズマブースター オカダプロジェクト

●Ninja250用 3万6,015円
●044-822-3341 ●http://www.okadaprojects.com

●プラズマブースターの取り付けは片方の線をイグニッションコイルに割り込ませ、もう一つの線を車体アースにつなぐだけ。外せばノーマルに戻るし、万が一壊れてもノーマルにもどるだけ。といってもこれまで壊れた例はないという



●本体はコンパクトなので置き場所に困らない



●機器で確認すると、ノーマルはパルス(スパーク)が1回だが、装着後は波が大きく回数が増えている。完全燃焼を促すので燃費にもよい効果があるという



●取り付け後はツインらしさが向上。とくに低中速域で効果が高い製品なので街中の走りが楽しくなる。何十馬力もパワーアップするものではないが、きちんとエンジンが動いている感じが心地よい

銀のBOXがエンジンの 潜在能力を引き出す

バイクを走らせるためにはガソリンだけではなく電気も必要だ。電気がないとエンジンはかからないし、ライトやウィンカー、メーターも動かない。また最近のバイクはコンピュータ制御されている部分が増えて、電気の流れも複雑になっている。しかし電気を上手く活用すればエンジンの持っている性能をさらに引き出し、パワーアップにつながる可能性があるのだ。

といっても電気は見えないので本当に効果が出るのかわかりにくい。ポクもプラズマブースターの発売元であるオカダプロジェクトの下岡さんに話を聞き体験するまでは半信半疑だった。「基本原理はプラグに流れる電気の量を増やし、スパークするときの火花を太くすることです」

エンジンは気化(霧化)させたガソリンと空気を混ぜた混合気を燃焼室に送り込み、ピストンで圧縮。適切なタイミングでプラグに火花を起し(スパーク)て爆発させ、ピストンを押し下

大きなスパークによって エンジンをファインチューン

げて駆動力を得る。そのスパークする工程に働きかける製品だという。「最初の火種を大きくし混合気を素早くキレイに燃やすことでエンジンが持つ性能を引き出します」。

プラグで発生する最初の火花が太ければそれだけ火の伝播力が早まり、混合気が一気に隅々まで燃える。短時間で燃焼効率が高まる結果、パワーアップが体感できるのだという。

「さらに通常は1回だけ起きるスパークを複数回発生させ、完全燃焼を促進するのです」。

それによって始動性やトルクアップが実感できるという。しかし火花を複数飛ばすと、エンジンにとって大事な点火タイミングが狂ったりしないのだろうか。

「実はプラグに電気が流れる時間はノーマルと同じです。その間に複数回スパークさせるので点火タイミングに悪影響を与えることはありません」。

無理矢理パワーアップしているのはなかった。プラグに流れる電気を無駄なく使い、混合気をすばやく完全燃焼させて生まれる爆発力を最大限に

活かしているのだ。そのためキャブやインジェクションのリセッティングも不要だという。

取り付けはイグニッションコイルのコードに配線を割りこませるだけという簡単なもの。今回テストに持ち込んだNinja250の場合、フルカウルを外すのがバズルのようで大変だったが、「配線が見えてしまえば取り付けは早かった。しかし電気が苦手」というポクのような人もいるだろう。その場合は素直にバイクショップや量販店のプロに任せるのがよい。

エンジンをかけた瞬間、アイドリングが強くなったのを感じた。ツインらしいドコドコ感が増しているのだ。さらに驚いたのは発進するとき、車体がゆっくり動き出し、半クラッチから完全につながるとき、通常なら一瞬落ちてしまう回転がほとんど落ちずにグイッと前に進んでいくのだ。街中を流しているときに使う中間域での反応もよく、アクセルを開け加速するのが楽しくなる。つなぐだけでこれだけ変わると思わなかった。一度付けたら外したくなくなるお役立ちパーツだった。